

第13回 「私の中で今、生きているあなた」 IN横浜 (終了しました)

9月10日から12日まで 横浜産貿ホール マリネリアで開催 (見学250名)

2009年(平成21年)9月10日 金曜日 A版 社会 (2)

遺書や故人の写真が展示された会場で「人間をホコ切れのように扱う社会の現実を直視してほしい」と話す伊福さん



過労や職場の人間関係が原因でうつ病になって自殺した50人の遺書や写真、遺族の手記などを集めた展示会「私の中で今、生きているあなた」が自殺予防週間の10日から、横浜市中区の横浜産貿ホール2階展示室で始まる。企画

した特定非営利活動法人(NPO法人)「働く者のメンタルヘルス相談室」の伊福達彦理事長は「これだけ多くの人を追いつぶる現状に目を向けてほしい」と話している。(宮本 敏也)

50人の遺書や写真 悲痛な叫び耳傾けて

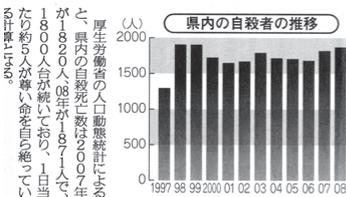
1998年8月、東京都の小児科医、中原利郎さん(当時44歳)は、勤務先の病院の屋上から飛び降りた。宿直勤務は多くいとまで月8回、宿直明けで、買市内の病院に小児科医として勤務する千恵智子さん(28)も来場し、勤務医の労働環境の改善を訴えつつあった遺書のタイ

「これまでに、全国で同様のパネル展を開催してきたが、横浜での開催は今が初めて。会場には、自らの絶つた人たちの「悲痛な叫び」が、本人や家族との集合写真とともに並ぶ。『経済大國日本の首都で行われているあまりにも貧弱な小児医療、不十分な人員と陳腐化した施設のもとで行われている。その名に値しない救急災害医療』この苦悶感の中で私は医師という職業を続けていく気力も体力もありません。1998年8月、東京都の小児科医、中原利郎さん(当時44歳)は、勤務先の病院の屋上から飛び降りた。宿直勤務は多くいとまで月8回、宿直明けで、買市内の病院に小児科医として勤務する千恵智子さん(28)も来場し、勤務医の労働環境の改善を訴えつつあった遺書のタイ

きょうから自殺予防週間

神奈川新聞9月10日

1日5人、年間1800人超が... 社会全体で取り組み訴え



人口10万人当たりの自殺死に率は08年で21.3人と、都道府県中、下から11番目(もっとも多いのは秋田県の37.0%)。ただ、今年に入ってから自殺死に率は、警察庁の7月までの統計によれば、前年比43人増の1119人で、「驚水増入り」(県保健福祉部)している。このため、県や横浜、川崎市や県内の関係機関で組織する「かながわ自殺対策会議」は世界自殺予防デーの10日、県内主要駅で街頭キャンペーンを行う。午前9時半からJR川崎、京急川崎駅、同日時半からJR川崎、京急川崎駅、同日時半から大和、中央林間駅でそれぞれ、同会議が作成した啓発用のリーフレットなどを配布、社会全体で自殺予防に取り組み大切さを訴える。

29 神奈川新聞 横浜 13版 2009年(平成21年)9月10日 木曜日 第4頁

過労自殺の悲しみ伝える

横浜産貿ホール 2階展示室にて、遺品や記録を並べ、大塚のNPOが巡回展開。遺品や記録を並べ、大塚のNPOが巡回展開。遺品や記録を並べ、大塚のNPOが巡回展開。遺品や記録を並べ、大塚のNPOが巡回展開。

朝日新聞9月10日

横浜港近く



中原のり子さんミニ講演



主催：特定非営利活動法人 働く者のメンタルヘルス相談室
住所：大阪市北区東天満2-2-5第二新興ビル605号
連絡：電話06-6242-8596 FAX06-6881-0782
メール：sodan@mhl.or.jp 携帯090-1148-9290伊福
ホームページ：www@mhl.or.jp

